

将来的な食の広がり土台を作る時期

低年齢の子ほど特に注意？



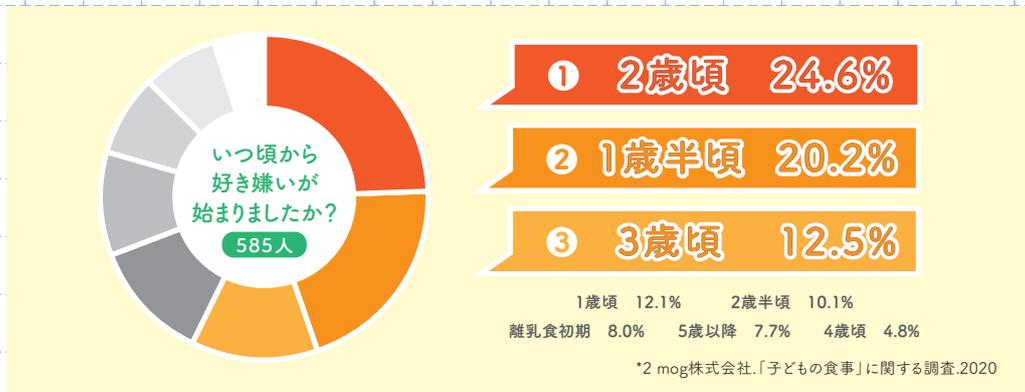
2020年2月とある大阪の保育園で1歳2ヶ月の男児が給食を喉に詰まらせ死亡してしまったという悲しい事故がありました。

報告書によるとその背景に「長年にわたり、好き嫌いをせず、時間内に全量食べることが定着し、子ども一人一人のペース等への配慮よりも優先されていた」とのことです。*1

*1 朝日新聞デジタル、園児死亡事故、「給食時間内に食べさせる」暗黙ルール。2021.01.16

0・1・2歳は食べる発展途上！

低年齢の子ほど食べることに必要な口腔機能も獲得の途中であり、言葉もまだこれからの時期ですので、コミュニケーション不足にも陥りやすく、より一層気をつけなければいけません。また、人間は2歳前後に味覚の感じ方が変わりますので、そのタイミングでこれまで食べていたものを食べなくなることがあるなど、偏食がより目立つ時期でもあることも覚えておきたいですね。



子どもの様子をしっかりと観察しよう



「子どもの意思確認なしに食べ物を口に運ぶ」なども、力もなく言葉でも上手に伝えられない小さい子ほど、大人のやり方を一方的に受け入れるしかなくなってしまいます。だからこそ大人もよく子どもの食べる様子を観察する必要があります。

詳しい解説記事はこちら！

